

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年10月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3893600027
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
(ユニット名)	南棟
記入者(管理者)	
氏 名	向成 良江
自己評価作成日	29 年 9 月 20 日

【事業所理念】 笑顔で穏やかなくらし！	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者の入れ替わり、職員の入れ替わりが続き、一からにはなるが一つ一つ利用者の思いを把握する取り組みをしている。その結果、毎日の関わりの中で職員同士でも統一できるよう話し合っている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、設立して約9年になるが、昨年管理者が交代すると共に多くの利用者の入退所により、心機一転、今までのケアの見直しをしたり、利用者の自立支援を考えたケアができる職員の育成などに取り組んでいる。また、運営推進会議に利用者と同じ夕食を提供することで、多数の人が参加して意見交換がなされるなど工夫している。今後は地域住民に向けた認知症の講習会を開催したりするなど、地域貢献にも取り組んでいきたいと考えている。
------------------------	--	---

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	毎日の会話の中で希望・意向を聞くようにしている。	○		△	日常の会話から利用者の意向の把握に努めている。聴取した情報は、利用者の受け持ち担当職員が「心情の情報シート」に記入している。その情報は増えていくため、毎年、情報シートを新しく見直し、最新のものに行っている。しかし、拝見したシートには、不十分な箇所もあるため、再度見直しを行い、誰が見ても本人の暮らしの意向が分かるよう充実した内容の記入を望みたい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までの生き方、家族からの情報を元にしてその人の立場になって考え行動にうつすようになった。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会に来られた時などに会話をする事で話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1・D-2のシートを利用し、本人の思いを聞きながら記録している。前回に比べると出来ている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを大切にするようにはしているがつい思い込みや、決めつけで関わっている職員もいる。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に本人様・家族様・関係者様等からの情報を聞き取り、シート等に記録している。			○	入居前に、家族や関係者から、利用者の生活歴を含む状況を確認し、その内容を「心情の情報シート」に記録している。シートは職員間で共有しており、いつでも見ることができる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントシートを使って状態を把握し、職員間でも現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日頃の行動や発言、状態の変化を記録する事で把握している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	申し送り等で職員間で伝えていく事で把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	本人1人1人の記録、関わりなどで把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	申し送り、カンファレンス、職員会等で意見交換している。			○	受け持ち担当職員が、日頃の生活の中から利用者が一番求めていることは何かを把握し、カンファレンスなどで話し合いケアに活かしている。管理者は職員一人ひとりが自分の考えを持ち、利用者の視点から利用者の言葉の意味を考えるよう指導している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	情報を元にカンファレンスなどで話し合い必要な支援を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランを元に本人がよりよく暮らせる為に課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	アセスメントを元に本人らしい暮らしが出来るケアプランの作成を心がけている。				介護計画は利用者や家族の意向をもとに、計画作成担当者が作成し、カンファレンスで職員全員で検討している。利用者の状態に変化がある時は、本人や家族との話し合いの場を設け、意向等を確認しケアに活かすよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族等と話をする事で意見やアイデアを反映出来るよう作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者様に対してその時に合った暮らし方で暮らしてもらっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	協力プランになっていない方が多いが行事の参加はほとんどの方に参加してもらっている。家族様にも声掛けしている。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員会やカンファレンス等で話し合い、介護記録の中にもプランを取り入れ職員間で共有している。			○	利用者の介護計画、その日のケア内容や様子が分かるように、記録は1日毎の様式にして記入し、職員間で共有している。記録は簡素化され記入しやすいものになっているが、利用者一人ひとりの言動などが簡略すぎであるため、日々の利用者の言葉が具体的に記載されていれば、職員の気づきにも繋がりが良い支援に結びつくと思われる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の生活の中で状況確認を行う事により評価をし、支援につなげている。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	アセスメントや介護記録などに記録するようにしているが出来ている時、出来ていない時がある。			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に記録をとるようにしているが出来ている人、出来ていない人がいる。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスで見直しを行っている。			○	3か月に1回定期的に計画の見直しを行っているが、大きな変化があった場合には、その都度検討するようにしている。介護計画に沿ったケアが実施できるよう、日々の記録用紙に支援内容を記し、毎日の記録の中でも見直しができるように工夫している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員会で現状や変化の報告をしている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後や身体の状態変化した場合には話し合い、現状に応じた新たなプランを作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職員会、カンファレンス以外でも何かある時には集まって話し合いを行っている。			○	定期的なカンファレンスや職員会議以外に、申し送りなど、必要に応じて、その日の出勤者が集まり話し合うようにしている。話し合いの内容は、日誌に記録して、参加できていない職員も把握できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	研修報告、勉強会等行う時には必ず全員が発言出来るように声掛けしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	参加されない人が居る為、その方が出勤されている日に日程を組んでいる。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録をとって回したり、職員会議後に仕事で参加出来なかった職員には伝えている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	介護日誌の伝達事項欄に記入し、みた人は必ず印を押すようにしている。大事なことには赤字で記入するようにしている。送り等でも口頭で伝え確認しあうようにしている。			◎	日誌を活用し、利用者の変化や変更事項、随時話し合った内容などを記録し、全員で共有できるようにしている。日誌を確認したら、印を押すようにし、どの職員にも伝達漏れがないように留意している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕の申し送りを必ずし情報を伝えている。早出は日勤、遅出にも情報を伝えるようにしている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日頃の会話の中でしたい事が無いか聞いたりしている。その日にしたい事があると言われる人には実行している。	/	/	/	何をしたいか何を望んでいるかなど、利用者一人ひとりの視点で考慮しケアに努めている。職員は生活の中で、利用者ができることに取り組んでもらいやすいよう声かけをするなど工夫し、日常の活力に繋がるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定が出来るような声掛けをしている。例えばおやつ時の飲み物等選んでもらうようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自分のしたい事、言いたい事は言われていると思う。出来る範囲で支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースで生活出来ている。起床、就寝など、入浴時の時間帯やタイミングが難しい時はある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者様の出来る事は声掛けをし、してもらうことによりその都度感謝の言葉を伝えている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やこわばり等からよみとるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会では学んでいるが、声掛け等で問題のある職員にはその都度注意している。	○	○	○	礼儀など基本的なことを含めた接遇マナー講習会の開催や、日頃から利用者の立場に留意できるよう、お互いに注意し合える関係づくりに取り組んでいる。管理者は、経験の浅い職員の配慮に欠ける言動を危惧し、申し送りでの理念の唱和や、職員一人ひとりが課題を考えられる機会を設け、利用者の誇りを尊重した関わりができるよう努力している。居室に入る時は、ノックだけでなく必ず声かけもするなど、プライバシーの配慮に万全を期して欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	言葉遣いや態度に気を付けていない職員が居る為その都度注意している。職員会、カンファレンス、申し送りでも話し合いをしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	排泄時、入浴時プライバシー等に配慮出来ていないときがある。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	訪室時にはノックはしているが、声掛けがきちんと出来ていない時がある。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	会議等で伝え、必ず守ってもらうようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事を一緒に行うことで感謝の言葉、気持ちを伝える事で関係性を築けている。	/	/	/	ソファやテーブルの座席を工夫したり、職員が間に入るよう努めており、トラブルを防ぐことができています。体調不良の利用者を他の利用者が気遣うような共に支え合ういい関係が築けている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が、声を掛け合ったり、いたわりあいながら暮らしていく大切さを理解出来ている職員もいる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が仲立ちしたり、利用者様にも声掛けをしながら助けてもらうこともある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	何かあった場合にはさりげなく間に入っている為大きなトラブルは今はおきていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	×	家族以外で本人様を取り巻く人間関係については把握出来ていない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様、家族様からの聞き取り、会話中での情報等で馴染みの美容室等などの把握できている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	お墓参り、集まりの会などに出かけたり、ハガキや手紙、電話でのやり取りを行っている利用者様もいる。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来られた方が居室やフロアでゆっくり過ごせるよう声掛けを行っている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	◎	地域の行事や庭先で過ごしたり、散歩に出かけている。	○	×	○	笹祭りなどの行事への参加、道の駅や外食へのドライブなど、気分転換のための外出計画を立て取り組んでおり、心待ちにしている利用者も多く好評である。敷地内の散歩や食材の買い出しなどは日課となっており、利用者の状態にかかわらず戸外で過ごす時間を増やしており、近隣の保育園とは、毎月合同の誕生日会を開催するなどの交流も図っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	まだ取り組めていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	状態を見ながら皆と同じように過ごせるように取り組んでいる。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力で行けている方も一部居られるが今後も継続し支援していきたい。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の勉強会は行っている。利用者様の状態の変化時にはその都度話し合いを行っている。				利用者のできそうなことでも職員が行うこともあったが、職員一人ひとりが利用者の視点で考える取組みを始め、自分でできることはしてもらうようにし、職員はいつでも助けられるよう見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	全員は出来ていない為今後取り組んでいけるようにしていきたい。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	◎	日常生活の中で家事等出来る事を利用者様同士で行うことが増えてきている。出来ない事は声掛けし、一緒に行うようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様の生活歴、楽しみごと等考え把握している。				野菜収穫や調理等食事の準備など、状態にかかわらず利用者にはできることに楽しんで取り組んでもらい、役割の達成が張り合いに繋がるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	看取りの方、目の見えない障害の方でも自分のしたい事をし過ごせるように取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では参加は出来ていない。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みの髪型、化粧等聞き取りながら把握している。				食卓のテーブルにはティッシュが置かれ、各居室には、専用の洗面台が設置され化粧をする利用者もいる。職員にも気配りに差があるが、職員同士で注意し合える関係づくりに努めることで、利用者目線での配慮に繋がっている。利用者の状態にかかわらず、その人らしさが保てるよう、行きつけの美容院に来てもらい、好みの髪型に整えてもらうなど利用者本位の支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自分で出来る方は好きのようにされている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けをしながら出来る範囲で支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や、行事がわかる方はおしゃれをされている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	気づけない職員が居る為その都度声掛けを行っている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	本人様、家族様が希望される店に連れて行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人様が行きつけの美容室に行けなくても、来てもらい本人様の好まれえる髪型にしてもらっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	職員によっては大切さを理解しているのではなく食べさせているだけになっている。				献立には、誕生日食や行事食、旬のもの、畑で収穫した野菜などを取り入れている。近隣のスーパーで利用者と一緒買い出しを行い、下準備や調理、後片付けなどを利用者と共にすることで、食への楽しみや自信に繋がっている。茶碗などは利用者それぞれが使い慣れたものを使用している。職員は利用者と同じ食卓で一緒に食事をしている。重度の利用者も自助具の活用や職員がサポートしながら、他の利用者と一緒にテーブルを囲み食べるようにしており、料理の匂いや食事の雰囲気等を皆と一緒に味わっている。栄養士はいないので、栄養士のいる事業所から参考に献立表をもらい、職員同士で話し合い、栄養バランスの取れた献立メニューになるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	献立作りには利用者様が食べたいメニューを聞きながら取り入れている。調理、後片付けも出来る利用者様と一緒にやっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様との関わりの中で得意な事、出来そうな事等を声掛けしながら一緒にやっている。感謝の言葉は必ず伝えるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前や本人・家族様からの聞き取りの中での情報を職員間で話確認しあっている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者様の希望を聞き一緒にメニュー作りを行っている。頂いた物や旬の物などを季節に応じて取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	△	利用者様一人一人に合った食事形態に合わせた調理方法、ミキサー食、キザミ、トロミなどは出来ているが器の工夫等が出来ていなかった為変えていっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人様の使い慣れたものを持ってきてもらい使っている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	○	一緒に時間で一緒に食事をしながら、見守り、一部介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	看取りの方でも食堂でみんなと一緒に過ごされている為、音やにおいは伝わっていると思われる。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量、水分量の確認は行っている。食事量が少ない方には、違う物で対応している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	時間をずらしたりタイミング等をみながら、脱水にならないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、職員同士で話し合いは行っている。栄養士のいるところから献立表を頂いて参考にさせてもらっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日の買い物で新鮮な食材を使用している。調理用具も衛生管理を日常的に行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	勉強会などを行い、伝えているがきちんと理解されていない職員もいる。				建物の構造上、洗面台が多くあり、利用者は好きな場所で口腔ケアを行っている。口腔ケアの重要性について理解が乏しい職員もいるため、保健師や歯科衛生士の講習会を受講し、職員全員が口腔ケアについて理解し、利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を確認し清潔を保てるようになって欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	△	自分で口腔ケアをされている方に対するの確認がきちんとできていない時がある。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	今は歯科受診時に教わった口腔ケアを行っているが、今後は勉強会等もしていきたい。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が出来ない方は職員が行い、自分で出来る方は行えるよう声掛けをしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	毎食後、声掛け誘導を行っている。清潔が保てるようにしている。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	すぐに予約を取り受診を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけトイレでの排泄が出来るように対応している。				利用者それぞれの排泄パターンのチェックを行い、排泄リズムを把握しトイレ誘導を行うなど、トイレでの排泄自立を念頭に、利用者一人ひとりに合った排泄支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員によっては理解できていない。今後も話し合っていきたい。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	チェック表、記録をとる事で把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	食事の前後にトイレに座る習慣をつける。出来ない時などは排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導、支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	体操、散歩、乳製品を取り入れたりと改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をとることで一人一人のパターンを把握し声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人様や家族様と話し合いをしながら支援をしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	一人一人の状態などに合わせて使い分けるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	乳製品や体操、散歩を取り入れている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	分かる方には声掛けをしながら、希望に沿って入浴してもらっている。	○		○	建物は学校を改築しているため、個浴で浴室が広く冬はヒーターを付けて身体が冷えないよう工夫している。シャンプーや石鹸などは好みのものを使っているほか、重度の利用者も特殊浴槽により入浴するなど、利用者皆が気持ちよく入浴できるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る範囲で入浴してもらい、出来ない事の支援を行い安心して入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	話をしたり、時間をあげたりしながら声掛け対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴時にはバイタル測定をし日中の本人の状態を伺いながら行っている。入浴後、水分補給をし状態確認している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をとったり送りなどで睡眠パターンを把握している。				作業をする機会を設けるなど、日中できる限り身体を動かしてもらい、夜間の安眠に繋げている。痛みなどで眠れない利用者には、ホットパック(温熱治療器)をして痛みを和らげるなど工夫しており、安易に薬に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中声掛け作業などで体を動かすことなど工夫している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	本人が希望される方、入所前から飲まれていた方には、医師との相談で服用されてる方もいるが、それ以外の方は出来るだけ薬に頼らず医師とも連携を取りながら指示に従って支援を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由にされ好きな時に部屋に戻り休まれる方もいる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	自分で電話が掛けられない人に対しては、掛けてあげる事でお話しされている。手紙のやりとりもされている方おられる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来ない方であろうとされる方には手助けを行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも電話出来るようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡すが本人がそのままにされている事が多い為、家族に伝えている。部屋に持って行っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	何度も電話をかけたがる方には、家族に協力してもらう事もある。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	利用者が行きたいとき欲しい物がある時には出掛けている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	周りにお店がないため、スーパーまで職員と行かれる事が多い。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族とも相談をしたうえで施設内での金額は決めてもらっているが、自分で使えるように支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会時に家族様と話し、本人様ともその都度話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様の同意を得ている。出納長のサインを毎月もらっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	出来る限り、本人様や家族様の意向に取り組めるように行っている。	◎		○	利用者個々で希望は異なるが、外食をしたいなどの希望が出た場合は、皆で外食できるよう取り計らいながら、できる限り一人ひとりの要望が実現できるよう努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	工夫はされていないが自由に入出入りが出来るようにしている。	◎	○	○	玄関は広くゆったりし、開放感があり入りやすい。事業所通信を掲示しており、家族も面会など事業所を訪れるのが楽しみになっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	馴染みのある使いやすい物を設置し利用している。家庭的な雰囲気をだせるようにしている。	○	○	○	日中利用者は食堂等の共用空間で過ごすことが多いため、気分の優れない時に休むためのベッドや椅子を設置したり、家族が来所時に見られるよう利用者作成のカレンダーを壁に飾るなど配慮されている。毎日決まった時間に換気や掃除を行い、利用者等が気持ちよく感じてもらえるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	時間で換気をしたりはしているが、掃除は細かいところまでいき届いていない。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	臭いや音等、生活感があるように心掛けている。手作りカレンダー季節感の感じるものを飾っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	いろんな所に椅子やソファを置いて、一人になれる場所をつくっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	カーテンを使ったり工夫はしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅から持ってきてもらい馴染みの物を使っている。	○		◎	居室は広く、使い慣れたダンスやソファなどを持ち込んだり、仏壇を置き毎日水をかえるなど、利用者それぞれ好みの部屋になっており、どの居室も居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	案内を書いたり手すりを使って自立した生活が送れるようにしている。			○	利用者皆が自分の部屋が分かるよう、共用スペースから部屋への道のりを矢印で示した案内紙を張るなど、自立に向けた支援に努めている。学校の寮を改装した建物なので洗面台が沢山あり、利用者が自分の思い思いの場所で整容などを行うことができるため、便利で重宝されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	場所が分かるように掲示している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	日中皆が過ごしている場所においてありいつでも使えるようにしてある。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	職員にはきちんと伝え理解してもらっている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解している。日中は自由に入出入りできるようにしているが、防犯のため夕方6時に施錠し、朝7時に開錠している。また防犯対策として、駐在所員による防犯訓練を運営推進会議で実施し、近隣住民との連携も図り、利用者の安全や安心に繋げている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方には理解してもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	今は一人で勝手に外に出て行かれる方がいないが、何かあった時には連絡などもらっていた。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞いた情報をシートにまとめ、職員間で確認し合ったり伝達しあっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル測定のほか食事、水分、排泄、睡眠、体重等の状態を個別に記録しチェックしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かがあるときにはナース、ドクター、薬剤師に連絡をし気軽に相談できるようにしている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人様、家族様が希望する病院に受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人様、家族様の希望を取り入れつつ、かかりつけ医院と事業所の関係を築きながら支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後、必ず家族に連絡し伝えている。申し送りなどで職員にも情報を伝達している。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	個別記録等を持参し日頃のケア、内容など情報はきちんと提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り状態を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	相談員さんたちと関係づくりしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	協力医療機関の看護師、薬剤師に伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも連絡がつき、対応可能な体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル測定を行っている。ドクター、ナース、薬剤師に、変化や異変が見られた場合にはすぐに報告し適切な対応が出来るようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	処方箋はいつでも確認出来るようにしているが、理解は全員はされていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	△	飲み忘れや誤薬を防ぐ為、何か気になる事がある時には確認が出来るように薬剤師が入っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬剤師が入っている事で本人様一人一人確認してもらったり状態を伝えたりして確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬剤師が入る事で、経過や変化など伝えて、見直しや状態を主治医に伝えてもらっている。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居前には家族に確認を行っている。その都度家族、主治医と相談、話し合いを行っている。				看取り経験もあり、看取り指針に基づき支援に努めている。終末期を迎えている利用者があり、主治医や看護師と連携し、できる限り食事を楽しんでもらうなど、他の利用者と同様に日常生活を送ってもらうよう支援している。終末期の意向は入居時に確認し、必要に応じて医療関係者や家族を含めて話し合う機会を設け、意向に沿ったケアに努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人様、家族様とのやり取りだけではなく、必要に応じて看護師、ドクターと話し合い、本人様にとってどうあったらよいか確認しながら支援内容を検討している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡したらすぐに対応出来るようにしてもらっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	伝えたうえで対応を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	準備を行っている。連携を図りながら体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	△	その都度話を聞いてあげているが職員の声掛け次第で不安にさせたことがあった為、十分気を付けるようもう一度再確認している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修に行ったり勉強会などで報告し学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	流れの書いてあるマニュアルのもと、いつでもできるよう訓練を行っていきたい。新人が多い為。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞などで情報は取り入れている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校、病院、施設等から情報を得て予防対策等対応出来るようにしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒・マスクを置いたり、各部屋の洗面台にも消毒を設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族との交流、面会時に話が出来ている職員もいる。				家族会は、不定期での開催ではあるが、事業所の活動や利用者の様子を知ってもらえる良い機会となっている。運営推進会議には、家族の代表者が参加し意見交換を行っており、会議に出られなかった家族には、議事録を送付し理解を得ている。行事等については、家族にも連絡しているが、職員の異動等は報告できていないので、今後は運営上のことについても報告することが望まれる。疎遠になりがちな家族に対しては、ゆうなぎ通信を出すほか、利用者の近況を書いた手紙を添えて送ったり、電話をするなど様子を伝えている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時に居室などで本人様とゆっくり過ごしてもらうよう声掛けしている。一緒におやつ等食べてもらうようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	行事の案内を出し参加を呼び掛けており、全員ではないが参加してくれている家族さんが増えている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	毎月のお便り、ゆうなぎ通信で伝えたり写真を送付している。電話等でもやりとりしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれた事には伝えていっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	支援していきたいが、新人スタッフが多い為全員が出来ていないが、本人様がよりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い今後出来るように支援していきたい。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	行事等伝えてはいるが、職員の退職や移動等については全部はできていない。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	○	家族会、行事には呼びかけを行っており、行事と一緒に楽しんでいる姿も見られる。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	一人一人自由に暮らしていくためには、何らかのリスクがあることを説明し、拘束にならないようその都度話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	出来ているスタッフ、出来ていないスタッフがいるが、普段から話し合える関係づくりに取り組んでいる。面会時には声をかけ話をするよう心掛けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時きちんと説明をおこなっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	△	説明をし、相談にのりながら支援を行っていく。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	金額の変更があった時には文章でお知らせしている。きちんと同意を得るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。		○		地域の運動会や祭りに参加したり、月1回地域のサロンに参加している高齢者の方や近隣の方の訪問があるなど、地域とはいい関係が築けているが、それが一部の住民とだけになっている。今後は、地域の多くの方と交流できる機会を持つことにより、事業所のことをより多くの住民に知ってもらい、理解がさらに深まることに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	地域の活動は全部は参加出来ていないが、今後もつながりは大切にしていきたい。		△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	外に出ている時に声は掛けてもらっている。支援してくれる人が今後増えていけるようにしていきたい。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	今後も気軽にきてもらえるようにしていきたい。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をしたり、行事には声掛けをしたり、外で会った時にはお話をしたりはある。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	サロンの方と食事作り、おやつ作りなど行事に参加してもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援していきたい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地域の保育所との毎月の交流会している。町内の飲食店利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回の利用者様の参加は難しいが家族の方の参加は増えてきている。	◎		◎	地域住民や駐在所員、近隣の障害者作業所の職員、家族の代表者など、多数の人が参加し、防犯、防災など多彩なテーマで進められている。会議は夕方の時間帯を利用し、参加者には利用者と同じメニューの夕食を食べてもらい、事業所のことを理解してもらうように努めている。会議では外部評価の取り組み状況等について報告し、参加者からの意見については、職員で協議しその結果はその都度資料にして配布し説明している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	毎回テーマを決めて行っている。利用者様、職員の報告は行っている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容とその取り組み状況など報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で言われて事は出来る事から取り組んでいる。そのうえで報告もしている。		○	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	沢山の方に参加してもらいたい為日程や時間帯を考えている。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関先の棚に置いている為いつでも誰でも見られるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	朝の朝礼にて、毎日声に出して言うようにし、意識づけをし業務に入ってもらっている。毎月自分が取り組めているかの確認のしアンケートを作り提出してもらい、次に取り組めるようにコメントをしたりしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先、事業所内いろんな所に見えるように掲示している。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けれるようにしてもらっている。				職員の不満やストレスは、管理者が直接聞くようにしている。代表者は、運営推進会議には参加するが、事業所内の職員のケアや利用者の様子を見る機会は少ない。代表者が職員の日頃のケアの様子を把握すると共に、定期的に声をかけるなど、職員の士気が高まることに努め、事業所全体の質がより向上するようになって欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員一人一人が毎月振り返りをしながら管理者が職員のスキルが向上するようコメントしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	努められていない。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着サービス協会や地域の連絡会に参加し他の事業所との交流にも取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	取り組まれていない。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会、カンファレンス、勉強会等において話し合い、研修に参加し学び理解している。				虐待防止の研修会に参加し、虐待とは何かについて考える機会を設けている。不適切な関わりが見られた場合には、全員が集まって話し合う機会を持ち、なぜその行為が不適切か考え業務に活かせるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	何気ない言葉や関わり、態度が不適切だった場合すぐに話し合い注意している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声をかけたり話を聞くようにしている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会研修に参加、施設内にも張り紙があり誰もがみれるようになっている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会、カンファレンス等で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望が出たことはないが出た時には対応している。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	管理者や、一部の職員は理解しているが全職員は理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援を行っていけるようにしたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しわかるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	小さなことでもヒヤリハットを出すことにより、大きな事故につながらないよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者、1人1人の状態をよく理解し事故につながるようなリスクを話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	全員の理解は出来ていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちょっとしたことでもすぐに職員に伝え改善するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置しているがあまり利用していない。日頃の関わりの中でさりげなく聞いたり言葉や表情、態度から思いを察するようにしている。気づいたことは職員間で話し合い、ケアに活かすようにしている。			○	苦情箱を設置するほか、家族会を通して意見を聞く機会を設け信頼関係を構築するなど、意見や苦情が言いやすいような環境づくりに努めている。管理者は、日頃から職員の意見や提案などを十分に聞き、利用者本位のケアができるよう検討し支援に繋げている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会や家族会、面会時等で意見や要望、苦情を聞く機会をつくっている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供を行えていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	こちらから言わないと聞いてくれる機会はない。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり利用者本位の支援を考え行動されている。			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				自己評価や外部評価の目的について、運営推進会議で報告し参加者には率直な意見や提案を求め、事業所の運営に活かしている。評価で見えてきた課題を、運営推進会議の議題として取りあげるよう予定するなど、さらなるステップアップを目指している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	学習していかないといけないことが多いため、活かしていきたい。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	一つ一つ達成できるように取り組んでいきたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	自己評価は家族にも見てもらっている。誰でもいつでも見られるようにしている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	している。これからもしていきたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。				夜間を想定した防災訓練を運営推進会議に併せて実施し、地域の人や近隣の事業所に参加してもらっている。また緊急連絡網に、運営推進会議に参加の地域住民も入るなど、いざという時の協力も得られており、地域とは強固な関係が築けている。今後は事業所を一時避難所にするなど、地域貢献にも取り組む意向である。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に二回訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練に参加してもらい、協力支援体制を築いている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	行うようにしていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	取り組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。				居宅介護支援事業所などから紹介を受け、認知症の家族の入所などの相談支援を行っているが、受身の感じが否めないのも、こちらからチラシなどを配るなど、事業所のことを積極的に広報するなどの取組みを望みたい。近隣の保育園などとの交流に止まっているため、町や地域包括支援センターなど関係機関との連携を図り、地域の拠点となるような事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば相談、支援を行えるようにしている。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	サロン活動は出来ているが他の活動は出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験等の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	イベントや集まりにも参加したり様々な人たちとのネットワークを広げられるようにしていきたい。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年10月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3893600027
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
(ユニット名)	北棟
記入者(管理者)	
氏 名	向成 良江
自己評価作成日	29 年 9 月 20 日

【事業所理念】 笑顔で穏やかなくらし！	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者の入れ替わり、職員の入れ替わりが続き、一からにはなるが一つ一つ利用者の思いを把握する取り組みをしている。その結果、毎日の関わりの中で職員同士でも統一できるよう話し合っている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、設立して約9年になるが、昨年管理者が交代すると共に多くの利用者の入退所により、心機一転、今までのケアの見直しをしたり、利用者の自立支援を考えたケアができる職員の育成などに取り組んでいる。また、運営推進会議に利用者と同じ夕食を提供することで、多数の人が参加して意見交換がなされるなど工夫している。今後は地域住民に向けた認知症の講習会を開催したりするなど、地域貢献にも取り組んでいきたいと考えている。
------------------------	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	毎日の会話の中で希望・意向を聞くようにしている。	○		△	日常の会話から利用者の意向の把握に努めている。聴取した情報は、利用者の受け持ち担当職員が「心情の情報シート」に記入している。その情報は増えていくため、毎年、情報シートを新しく見直し、最新のものに行っている。しかし、拝見したシートには、不十分な箇所もあるため、再度見直しを行い、誰が見ても本人の暮らしの意向が分かるよう充実した内容の記入を望みたい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までの生き方、家族からの情報を元にしてその人の立場になって考え行動にうつすようになった。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会に来られた時などに会話をする事で話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1・D-2のシートを利用し、本人の思いを聞きながら記録している。前回に比べると出来ている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを大切にするようにはしているがつい思い込みや、決めつけで関わっている職員もいる。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前に本人様・家族様・関係者様等からの情報を聞き取り、シート等に記録している。			○	入居前に、家族や関係者から、利用者の生活歴を含む状況を確認し、その内容を「心情の情報シート」に記録している。シートは職員間で共有しており、いつでも見ることができる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントシートを使って状態を把握し、職員間でも現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日頃の行動や発言、状態の変化を記録する事で把握している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	申し送り等で職員間で伝えていく事で把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	本人1人1人の記録、関わりなどで把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	申し送り、カンファレンス、職員会等で意見交換している。			○	受け持ち担当職員が、日頃の生活の中から利用者が一番求めていることは何かを把握し、カンファレンスなどで話し合いケアに活かしている。管理者は職員一人ひとりが自分の考えを持ち、利用者の視点から利用者の言葉の意味を考えるよう指導している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	情報を元にカンファレンスなどで話し合い必要な支援を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランを元に本人がよりよく暮らせる為に課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	アセスメントを元に本人らしい暮らしが出来るケアプランの作成を心がけている。				介護計画は利用者や家族の意向をもとに、計画作成担当者が作成し、カンファレンスで職員全員で検討している。利用者の状態に変化がある時は、本人や家族との話し合いの場を設け、意向等を確認しケアに活かすよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族等と話をする事で意見やアイデアを反映出来るよう作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者様に対してその時に合った暮らし方で暮らしてもらっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	協力プランになっていない方が多いが行事の参加はほとんどの方に参加してもらっている。家族様にも声掛けしている。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員会やカンファレンス等で話し合い、介護記録の中にもプランを取り入れ職員間で共有している。			○	利用者の介護計画、その日のケア内容や様子が分かるように、記録は1日毎の様式にして記入し、職員間で共有している。記録は簡素化され記入しやすいものになっているが、利用者一人ひとりの言動などが簡略すぎであるため、日々の利用者の言葉が具体的に記載されていれば、職員の気づきにも繋がりが良い支援に結びつくと思われる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の生活の中で状況確認を行う事により評価をし、支援につなげている。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	アセスメントや介護記録などに記録するようにしているが出来ている時、出来ていない時がある。			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に記録をとるようにしているが出来ている人、出来ていない人がいる。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスで見直しを行っている。			○	3か月に1回定期的に計画の見直しを行っているが、大きな変化があった場合には、その都度検討するようにしている。介護計画に沿ったケアが実施できるよう、日々の記録用紙に支援内容を記し、毎日の記録の中でも見直しができるように工夫している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員会で現状や変化の報告をしている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後や身体の状態変化した場合には話し合い、現状に応じた新たなプランを作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職員会、カンファレンス以外でも何かある時には集まって話し合いを行っている。			○	定期的なカンファレンスや職員会議以外に、申し送りなど、必要に応じて、その日の出勤者が集まり話し合うようにしている。話し合いの内容は、日誌に記録して、参加できていない職員も把握できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	研修報告、勉強会等行う時には必ず全員が発言出来るように声掛けしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	参加されない人が居る為、その方が出勤されている日に日程を組んでいる。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録をとって回したり、職員会議後に仕事で参加出来なかった職員には伝えている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	介護日誌の伝達事項欄に記入し、みた人は必ず印を押すようにしている。大事なことには赤字で記入するようにしている。送り等でも口頭で伝え確認しあうようにしている。			◎	日誌を活用し、利用者の変化や変更事項、随時話し合った内容などを記録し、全員で共有できるようにしている。日誌を確認したら、印を押すようにし、どの職員にも伝達漏れがないように留意している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕の申し送りを必ずし情報を伝えている。早出は日勤、遅出にも情報を伝えるようにしている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日頃の会話の中でしたい事が無いか聞いたりしている。その日にしたい事があると言われる人には実行している。				何をしたいか何を望んでいるかなど、利用者一人ひとりの視点で考慮しケアに努めている。職員は生活の中で、利用者ができることに取り組んでもらいやすいよう声かけをするなど工夫し、日常の活力に繋がるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定が出来るような声掛けをしている。例えばおやつ時の飲み物等選んでもらうようにしている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自分のしたい事、言いたい事は言われていると思う。出来る範囲で支援を行っている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースで生活出来ている。起床、就寝など、入浴時の時間帯やタイミングが難しい時はある。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者様の出来る事は声掛けをし、してもらうことによりその都度感謝の言葉を伝えている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やこわばり等からよみとるようにしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会では学んでいるが、声掛け等で問題のある職員にはその都度注意している。	○	○	○	礼儀など基本的なことを含めた接遇マナー講習会の開催や、日頃から利用者の立場に留意できるよう、お互いに注意し合える関係づくりに取り組んでいる。管理者は、経験の浅い職員の配慮に欠ける言動を危惧し、申し送りでの理念の唱和や、職員一人ひとりが課題を考えられる機会を設け、利用者の誇りを尊重した関わりができるよう努力している。居室に入る時は、ノックだけでなく必ず声かけもするなど、プライバシーの配慮に万全を期して欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	言葉遣いや態度に気を付けていない職員が居る為その都度注意している。職員会、カンファレンス、申し送りでも話し合いをしている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	排泄時、入浴時プライバシー等に配慮出来ていないときがある。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	訪室時にはノックはしているが、声掛けがきちんと出来ていない時がある。			△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	会議等で伝え、必ず守ってもらうようにしている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事を一緒に行うことで感謝の言葉、気持ちを伝える事で関係性を築けている。				ソファやテーブルの座席を工夫したり、職員が間に入るよう努めており、トラブルを防ぐことができています。体調不良の利用者を他の利用者が気遣うような共に支え合ういい関係が築けている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が、声を掛け合ったり、いたわりあいながら暮らしていく大切さを理解出来ている職員もいる。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が仲立ちしたり、利用者様にも声掛けをしながら助けてもらうこともある。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	何かあった場合にはさりげなく間に入っている為大きなトラブルは今はおきていない。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	×	家族以外で本人様を取り巻く人間関係については把握出来ていない。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人様、家族様からの聞き取り、会話中での情報等で馴染みの美容室等などの把握できている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	お墓参り、集まりの会などに出かけたり、ハガキや手紙、電話でのやり取りを行っている利用者様もいる。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来られた方が居室やフロアでゆっくり過ごせるよう声掛けを行っている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	地域の行事や庭先で過ごしたり、散歩に出かけている。	○	×	○	笹祭りなどの行事への参加、道の駅や外食へのドライブなど、気分転換のための外出計画を立て取り組んでおり、心待ちにしている利用者も多く好評である。敷地内の散歩や食材の買い出しなどは日課となっており、利用者の状態にかかわらず戸外で過ごす時間を増やしており、近隣の保育園とは、毎月合同の誕生日会を開催するなどの交流も図っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	まだ取り組めていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	状態を見ながら皆と同じように過ごせるように取り組んでいる。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力で行けている方も一部居られるが今後も継続し支援していきたい。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の勉強会は行っている。利用者様の状態の変化時にはその都度話し合いを行っている。				利用者のできそうなことでも職員が行うこともあったが、職員一人ひとりが利用者の視点で考える取組みを始め、自分でできることはしてもらうようにし、職員はいつでも助けられるよう見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	全員は出来ていない為今後取り組んでいけるようにしていきたい。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	日常生活の中で家事等出来る事を利用者様同士で行うことが増えてきている。出来ない事は声掛けし、一緒に行うようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様の生活歴、楽しみごと等考え把握している。				野菜収穫や調理等食事の準備など、状態にかかわらず利用者にはできることに楽しんで取り組んでもらい、役割の達成が張り合いに繋がるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	看取りの方、目の見えない障害の方でも自分のしたい事をし過ごせるように取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では参加は出来ていない。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みの髪型、化粧等聞き取りながら把握している。				食卓のテーブルにはティッシュが置かれ、各居室には、専用の洗面台が設置され化粧をする利用者もいる。職員にも気配りに差があるが、職員同士で注意し合える関係づくりに努めることで、利用者目線での配慮に繋がっている。利用者の状態にかかわらず、その人らしさが保てるよう、行きつけの美容院に来てもらい、好みの髪型に整えてもらうなど利用者本位の支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自分で出来る方は好きのようにされている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けをしながら出来る範囲で支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や、行事がわかる方はおしゃれをされている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	気づけない職員が居る為その都度声掛けを行っている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	本人様、家族様が希望される店に連れて行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人様が行きつけの美容室に行けなくても、来てもらい本人様の好まれえる髪型にしてもらっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	職員によっては大切さを理解しているのではなく食べさせているだけになっている。				献立には、誕生日食や行事食、旬のもの、畑で収穫した野菜などを取り入れている。近隣のスーパーで利用者と一緒買い出しを行い、下準備や調理、後片付けなどを利用者と共にすることで、食への楽しみや自信に繋がっている。茶碗などは利用者それぞれが使い慣れたものを使用している。職員は利用者と同じ食卓で一緒に食事をしている。重度の利用者も自助具の活用や職員がサポートしながら、他の利用者と一緒にテーブルを囲み食べるようにしており、料理の匂いや食事の雰囲気等を皆と一緒に味わっている。栄養士はいないので、栄養士のいる事業所から参考に献立表をもらい、職員同士で話し合い、栄養バランスの取れた献立メニューになるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	◎	献立作りには利用者様が食べたいメニューを聞きながら取り入れている。調理、後片付けも出来る利用者様と一緒にいる。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様との関わりの中で得意な事、出来そうな事等を声掛けしながら一緒にいる。感謝の言葉は必ず伝えるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前や本人・家族様からの聞き取りの中での情報を職員間で話確認しあっている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者様の希望を聞き一緒にメニュー作りを行っている。頂いた物や旬の物などを季節に応じて取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	△	利用者様一人一人に合った食事形態に合わせた調理方法、ミキサー食、キザミ、トロミなどは出来ているが器の工夫等が出来ていなかった為変えていっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人様の使い慣れたものを持ってきてもらい使っている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなく行っている。	○	一緒に時間で一緒に食事をしながら、見守り、一部介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	看取りの方でも食堂でみんなと一緒に過ごされている為、音やにおいは伝わっていると思われる。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量、水分量の確認は行っている。食事量が少ない方には、違う物で対応している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	時間をずらしたりタイミング等をみながら、脱水にならないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、職員同士で話し合いは行っている。栄養士のいるところから献立表を頂いて参考にさせてもらっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日の買い物で新鮮な食材を使用している。調理用具も衛生管理を日常的に行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	勉強会などを行い、伝えているがきちんと理解されていない職員もいる。				建物の構造上、洗面台が多くあり、利用者は好きな場所で口腔ケアを行っている。口腔ケアの重要性について理解が乏しい職員もいるため、保健師や歯科衛生士の講習会を受講し、職員全員が口腔ケアについて理解し、利用者一人ひとりの口腔内の健康状態を確認し清潔を保てるようになって欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	△	自分で口腔ケアをされている方に対する確認がきちんとできていない時がある。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	今は歯科受診時に教わった口腔ケアを行っているが、今後は勉強会等もしていきたい。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が出来ない方は職員が行い、自分で出来る方は行えるよう声掛けをしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	毎食後、声掛け誘導を行っている。清潔が保てるようにしている。			△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	すぐに予約を取り受診を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけトイレでの排泄が出来るように対応している。				利用者それぞれの排泄パターンのチェックを行い、排泄リズムを把握しトイレ誘導を行うなど、トイレでの排泄自立を念頭に、利用者一人ひとりに合った排泄支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員によっては理解できていない。今後も話し合っていきたい。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	チェック表、記録をとる事で把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	食事の前後にトイレに座る習慣をつける。出来ない時などは排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導、支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	体操、散歩、乳製品を取り入れたりと改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をとることで一人一人のパターンを把握し声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人様や家族様と話し合いをしながら支援をしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	一人一人の状態などに合わせて使い分けるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	乳製品や体操、散歩を取り入れている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	分かる方には声掛けをしながら、希望に沿って入浴してもらっている。	○		○	建物は学校を改築しているため、個浴で浴室が広く冬はヒーターを付けて身体が冷えないよう工夫している。シャンプーや石鹸などは好みのものを使っているほか、重度の利用者も特殊浴槽により入浴するなど、利用者皆が気持ちよく入浴できるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る範囲で入浴してもらい、出来ない事の支援を行い安心して入浴してもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	話をしたり、時間をあげたりしながら声掛け対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴時にはバイタル測定をし日中の本人の状態を伺いながら行っている。入浴後、水分補給をし状態確認している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録をとったり送りなどで睡眠パターンを把握している。				作業をする機会を設けるなど、日中できる限り身体を動かしてもらい、夜間の安眠に繋げている。痛みなどで眠れない利用者には、ホットパック(温熱治療器)をして痛みを和らげるなど工夫しており、安易に薬に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中声掛け作業などで体を動かすことなど工夫している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	本人が希望される方、入所前から飲まれていた方には、医師との相談で服用されてる方もいるが、それ以外の方は出来るだけ薬に頼らず医師とも連携を取りながら指示に従って支援を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由にされ好きな時に部屋に戻り休まれる方もいる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	自分で電話が掛けられない人に対しては、掛けてあげる事でお話しされている。手紙のやりとりもされている方おられる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来ない方であろうとされる方には手助けを行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも電話出来るようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡すが本人がそのままにされている事が多い為、家族に伝えている。部屋に持って行っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	何度も電話をかけたがる方には、家族に協力してもらう事もある。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	利用者が行きたいとき欲しい物がある時には出掛けている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	周りにお店がないため、スーパーまで職員と行かれる事が多い。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族とも相談をしたうえで施設内での金額は決めてもらっているが、自分で使えるように支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会時に家族様と話し、本人様ともその都度話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様の同意を得ている。出納長のサインを毎月もらっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	出来る限り、本人様や家族様の意向に取り組めるように行っている。	◎		○	利用者個々で希望は異なるが、外食をしたいなどの希望が出た場合は、皆で外食できるよう取り計らいながら、できる限り一人ひとりの要望が実現できるよう努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	工夫はされていないが自由に入出入りが出来るようにしている。	◎	○	○	玄関は広くゆったりし、開放感があり入りやすい。事業所通信を掲示しており、家族も面会など事業所を訪れるのが楽しみになっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	馴染みのある使いやすい物を設置し利用している。家庭的な雰囲気をだせるようにしている。	○	○	○	日中利用者は食堂等の共用空間で過ごすことが多いため、気分の優れない時に休むためのベッドや椅子を設置したり、家族が来所時に見られるよう利用者作成のカレンダーを壁に飾るなど配慮されている。毎日決まった時間に換気や掃除を行い、利用者等が気持ちよく感じてもらえるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	時間で換気をしたりはしているが、掃除は細かいところまでいき届いていない。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	臭いや音等、生活感があるように心掛けている。手作りカレンダー季節感の感じるものを飾っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	いろんな所に椅子やソファを置いて、一人になれる場所をつくっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	カーテンを使ったり工夫はしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅から持ってきてもらい馴染みの物を使っている。	○		◎	居室は広く、使い慣れたダンスやソファなどを持ち込んだり、仏壇を置き毎日水をかえるなど、利用者それぞれ好みの部屋になっており、どの居室も居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	案内を書いたり手すりを使って自立した生活が送れるようにしている。			○	利用者皆が自分の部屋が分かるよう、共用スペースから部屋への道のりを矢印で示した案内紙を張るなど、自立に向けた支援に努めている。学校の寮を改装した建物なので洗面台が沢山あり、利用者が自分の思い思いの場所で整容などを行うことができるため、便利で重宝されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	場所が分かるように掲示している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	日中皆が過ごしている場所においてありいつでも使えるようにしてある。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	職員にはきちんと伝え理解してもらっている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解している。日中は自由に入出入りできるようにしているが、防犯のため夕方6時に施錠し、朝7時に開錠している。また防犯対策として、駐在所員による防犯訓練を運営推進会議で実施し、近隣住民との連携も図り、利用者の安全や安心に繋げている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方には理解してもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	今は一人で勝手に外に出て行かれる方がいないが、何かあった時には連絡などもらっていた。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞いた情報をシートにまとめ、職員間で確認し合ったり伝達しあっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル測定のほか食事、水分、排泄、睡眠、体重等の状態を個別に記録しチェックしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かがあるときにはナース、ドクター、薬剤師に連絡をし気軽に相談できるようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人様、家族様が希望する病院に受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人様、家族様の希望を取り入れつつ、かかりつけ医院と事業所の関係を築きながら支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後、必ず家族に連絡し伝えている。申し送りなどで職員にも情報を伝達している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	個別記録等を持参し日頃のケア、内容など情報はきちんと提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り状態を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	相談員さんたちと関係づくりしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	協力医療機関の看護師、薬剤師に伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間いつでも連絡がつき、対応可能な体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル測定を行っている。ドクター、ナース、薬剤師に、変化や異変が見られた場合にはすぐに報告し適切な対応が出来るようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	処方箋はいつでも確認出来るようにしているが、理解は全員はされていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	△	飲み忘れや誤薬を防ぐ為、何か気になる事がある時には確認が出来るように薬剤師が入っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬剤師が入っている事で本人様一人一人確認してもらったり状態を伝えたりして確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬剤師が入る事で、経過や変化など伝えて、見直しや状態を主治医に伝えてもらっている。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居前には家族に確認を行っている。その都度家族、主治医と相談、話し合いを行っている。				看取り経験もあり、看取り指針に基づき支援に努めている。終末期を迎えている利用者があり、主治医や看護師と連携し、できる限り食事を楽しんでもらうなど、他の利用者と同様に日常生活を送ってもらうよう支援している。終末期の意向は入居時に確認し、必要に応じて医療関係者や家族を含めて話し合う機会を設け、意向に沿ったケアに努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人様、家族様とのやり取りだけではなく、必要に応じて看護師、ドクターと話し合い、本人様にとってどうあったらよいか確認しながら支援内容を検討している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡したらすぐに対応出来るようにしてもらっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	伝えたうえで対応を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	準備を行っている。連携を図りながら体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	△	その都度話を聞いてあげているが職員の声掛け次第で不安にさせたことがあった為、十分気を付けるようもう一度再確認している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修に行ったり勉強会などで報告し学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	流れの書いてあるマニュアルのもと、いつでもできるよう訓練を行っていきたい。新人が多い為。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビや新聞などで情報は取り入れている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校、病院、施設等から情報を得て予防対策等対応出来るようにしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒・マスクを置いたり、各部屋の洗面台にも消毒を設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族との交流、面会時に話が出来ている職員もいる。				家族会は、不定期での開催ではあるが、事業所の活動や利用者の様子を知ってもらえる良い機会となっている。運営推進会議には、家族の代表者が参加し意見交換を行っており、会議に出られなかった家族には、議事録を送付し理解を得ている。行事等については、家族にも連絡しているが、職員の異動等は報告できていないので、今後は運営上のことについても報告することが望まれる。疎遠になりがちな家族に対しては、ゆうなぎ通信を出すほか、利用者の近況を書いた手紙を添えて送ったり、電話をするなど様子を伝えている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	面会時に居室などで本人様とゆっくり過ごしてもらうよう声掛けしている。一緒におやつ等食べてもらうようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	行事の案内を出し参加を呼び掛けており、全員ではないが参加してくれている家族さんが増えている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	毎月のお便り、ゆうなぎ通信で伝えたり写真を送付している。電話等でもやりとりしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれた事には伝えていっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	支援していきたいが、新人スタッフが多い為全員が出来ていないが、本人様がよりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い今後出来るように支援していきたい。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	行事等伝えてはいるが、職員の退職や移動等については全部はできていない。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	○	家族会、行事には呼びかけを行っており、行事と一緒に楽しんでいる姿も見られる。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	一人一人自由に暮らしていくためには、何らかのリスクがあることを説明し、拘束にならないようその都度話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	出来ているスタッフ、出来ていないスタッフがいるが、普段から話し合える関係づくりに取り組んでいる。面会時には声をかけ話をするよう心掛けている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時きちんと説明をおこなっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	△	説明をし、相談にのりながら支援を行っていく。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	○	金額の変更があった時には文章でお知らせしている。きちんと同意を得るようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。		○		地域の運動会や祭りに参加したり、月1回地域のサロンに参加している高齢者の方や近隣の方の訪問があるなど、地域とはいい関係が築けているが、それが一部の住民とだけになっている。今後は、地域の多くの方と交流できる機会を持つことにより、事業所のことをより多くの住民に知ってもらい、理解がさらに深まることに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	△	地域の活動は全部は参加出来ていないが、今後もつながりは大切にしていきたい。		△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	外に出ている時に声は掛けてもらっている。支援してくれる人が今後増えていけるようにしていきたい。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	今後も気軽にきてもらえるようにしていきたい。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶をしたり、行事には声掛けをしたり、外で会った時にはお話をしたりはある。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	サロンの方と食事作り、おやつ作りなど行事に参加してもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援していきたい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	地域の保育所との毎月の交流会している。町内の飲食店利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回の利用者様の参加は難しいが家族の方の参加は増えてきている。	◎		◎	地域住民や駐在所員、近隣の障害者作業所の職員、家族の代表者など、多数の人が参加し、防犯、防災など多彩なテーマで進められている。会議は夕方の時間帯を利用し、参加者には利用者と同じメニューの夕食を食べてもらい、事業所のことを理解してもらうように努めている。会議では外部評価の取り組み状況等について報告し、参加者からの意見については、職員で協議しその結果はその都度資料にして配布し説明している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	毎回テーマを決めて行っている。利用者様、職員の報告は行っている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容とその取り組み状況など報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で言われて事は出来る事から取り組んでいる。そのうえで報告もしている。		○	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	沢山の方に参加してもらいたい為日程や時間帯を考えている。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関先の棚に置いている為いつでも誰でも見られるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	朝の朝礼にて、毎日声に出して言うようにし、意識づけをし業務に入ってもらっている。毎月自分が取り組んでいるかの確認のしアンケートを作り提出してもらい、次に取り組めるようにコメントをしたりしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先、事業所内いろんな所に見えるように掲示している。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けれるようにしてもらっている。				職員の不満やストレスは、管理者が直接聞くようにしている。代表者は、運営推進会議には参加するが、事業所内の職員のケアや利用者の様子を見る機会は少ない。代表者が職員の日頃のケアの様子を把握すると共に、定期的に声をかけるなど、職員の士気が高まることに努め、事業所全体の質がより向上するようになって欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員一人一人が毎月振り返りをしながら管理者が職員のスキルが向上するようコメントしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	努められていない。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着サービス協会や地域の連絡会に参加し他の事業所との交流にも取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	取り組まれていない。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会、カンファレンス、勉強会等において話し合い、研修に参加し学び理解している。				虐待防止の研修会に参加し、虐待とは何かについて考える機会を設けている。不適切な関わりが見られた場合には、全員が集まって話し合う機会を持ち、なぜその行為が不適切か考え業務に活かせるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	何気ない言葉や関わり、態度が不適切だった場合すぐに話し合い注意している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声をかけたり話を聞くようにしている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会研修に参加、施設内にも張り紙があり誰もがみれるようになっている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会、カンファレンス等で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望が出たことはないが出た時には対応している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	管理者や、一部の職員は理解しているが全職員は理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援を行っていけるようにしたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しわかるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	小さなことでもヒヤリハットを出すことにより、大きな事故につながらないよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者、1人1人の状態をよく理解し事故につながるようなリスクを話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	全員の理解は出来ていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちょっとしたことでもすぐに職員に伝え改善するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置しているがあまり利用していない。日頃の関わりの中でさりげなく聞いたり言葉や表情、態度から思いを察するようにしている。気づいたことは職員間で話し合い、ケアに活かすようにしている。			○	苦情箱を設置するほか、家族会を通して意見を聞く機会を設け信頼関係を構築するなど、意見や苦情が言いやすいような環境づくりに努めている。管理者は、日頃から職員の意見や提案などを十分に聞き、利用者本位のケアができるよう検討し支援に繋げている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会や家族会、面会時等で意見や要望、苦情を聞く機会をつくっている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供を行えていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	こちらから言わないと聞いてくれる機会はない。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり利用者本位の支援を考え行動されている。			○	

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				自己評価や外部評価の目的について、運営推進会議で報告し参加者には率直な意見や提案を求め、事業所の運営に活かしている。評価で見えてきた課題を、運営推進会議の議題として取りあげるよう予定するなど、さらなるステップアップを目指している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	学習していかないといけないことが多いため、活かしていきたい。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	一つ一つ達成できるように取り組んでいきたい。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	自己評価は家族にも見てもらっている。誰でもいつでも見られるようにしている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	している。これからもしていきたい。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。				夜間を想定した防災訓練を運営推進会議に併せて実施し、地域の人や近隣の事業所に参加してもらっている。また緊急連絡網に、運営推進会議に参加の地域住民も入るなど、いざという時の協力も得られており、地域とは強固な関係が築けている。今後は事業所を一時避難所にするなど、地域貢献にも取り組む意向である。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に二回訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練に参加してもらい、協力支援体制を築いている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	行うようにしていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	取り組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。				居宅介護支援事業所などから紹介を受け、認知症の家族の入所などの相談支援を行っているが、受身の感じが否めないのも、こちらからチラシなどを配るなど、事業所のことを積極的に広報するなどの取組みを望みたい。近隣の保育園などとの交流に止まっているため、町や地域包括支援センターなど関係機関との連携を図り、地域の拠点となるような事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば相談、支援を行えるようにしている。		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	サロン活動は出来ているが他の活動は出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験等の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	イベントや集まりにも参加したり様々な人たちとのネットワークを広げられるようにしていきたい。			△	